

令和5年度第4回尾張旭市子ども・子育て会議録

1 開催日時

令和6年3月12日（火）

開会 午前10時

閉会 午前11時10分

2 開催場所

尾張旭市役所南庁舎2階 201会議室

3 出席委員

上村千尋、安藤郁子、松崎佳代子、水野夏子、清水まさみ、松原美保子、谷口礼、水野寿美代、藤田政克、志村美栄子、朝見巳幸
11名

4 欠席委員

近藤信綱、米井ちさと 2名

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員

こども子育て部長 竹内元康

こども子育て部次長兼こども未来課長兼こども課長 山本和男

保育課長 川本英貴

保育課指導保育士 松本真理子

子育て相談課長 二村正篤

保育課長補佐 西尾元伸

こども未来課こども政策係長 長瀬絵里子

こども未来課こども政策係 森康臣

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 岩室秀典、岩田賢

7 議題

(1) 特定教育・保育施設の利用定員の設定について

(2) (仮称)尾張旭市こども計画の策定に係るアンケート調査結果について

8 配布資料

(1) 特定教育・保育施設の利用定員の設定について 資料1

(2) (仮称)尾張旭市こども計画の策定に係るアンケート調査結果について 資料2

(3) 理想の子ども的人数について 資料3

9 会議の要旨

(発言者名)	(発言内容)
部長	<p>定刻となりましたので、ただ今から、令和5年度第4回尾張旭市子ども・子育て会議を開会いたします。</p> <p>お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。こども子育て部長の竹内です。本日もよろしく願いいたします。</p> <p>最初に欠席委員について報告させていただきます。</p> <p>近藤委員、米井委員の2名から本日の会議を欠席される旨の連絡がございました。</p> <p>本日の出席委員は11名でございますので、過半数の出席をいただいております。従いまして、本会議条例第6条第2項の規定による定足数に達しております。</p> <p>なお、この会議は公開しておりますので、会議の傍聴席を設けてございます。また、会議録を作成し、市ホームページ等で公表をまいりますので、委員の皆さまにはご了承いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、以降の会議の進行につきましては、議長であります上村会長をお願いいたします。よろしく願いいたします。</p>
上村会長	<p>それでは、これより、私が会議を進めてまいりますので、委員の皆さまよろしく願いします。</p> <p>本日の会議につきましては、事前に配布いたしております次第に従い進めさせていただきます。</p> <p>議題「特定教育・保育施設の利用定員の設定について」です。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>議題(1)「特定教育・保育施設の利用定員の設定について」です。資料1をご覧ください。</p> <p>1 利用定員の設定についての意見聴取としまして、平成27年度からスタートした子ども・子育て支援新制度では、市が保育所等を施設型給付、いわゆる補助の対象とするための確認を行うにあたって、その施設の利用定員を定める必要があります。</p> <p>利用定員とは、原則、施設を利用できる人数の上限であり、市が補助金を給付する上限ということになります。</p> <p>この利用定員を定めようとするときには、子ども・子育て会議に意見を聴くこととされております。</p> <p>関連する法律が、資料下の(参考)としてある枠内になります。枠内の下の方、「利用定員を定めようとするときは、審議会その他の合議制の機関を設置している場合にあってはその意見を</p>

	<p>聴かなければならない。」とされている部分になります。</p> <p>今回は、その意見をお聴きする場という位置づけになります。</p> <p>2 利用定員を設定する教育・保育施設としまして、このたび、愛英本地幼稚園から、令和6年4月1日より、子ども・子育て支援新制度へ移行する旨の申請がありました。利用定員は、105人とするものです。</p> <p>説明は以上です。</p>
上村会長	<p>ただいまの事務局の説明について、ご意見・ご質問などあればお願いします。</p>
上村会長	<p>愛英本地幼稚園の現在の充足率はどの程度でしょうか。</p>
保育課長	<p>本年度の4月1日時点の利用者数は、だいたい60名程度（市民）です。正確には56名ですが、今現在は満3歳児の利用者もおりますので、60名程となっています。</p>
上村会長	<p>今の説明ですと、上限という意味では105名という数は適正ではないでしょうか。</p>
保育課長	<p>ちなみに昨年度は86名でした。</p>
上村会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他に委員さんからご意見・ご質問があればお願いします。</p>
	<p>(質問なし)</p>
上村会長	<p>それでは、利用定員につきまして、当会議において、特段の意見は付さないこととします。</p> <p>続きまして、議題(2)「(仮称)尾張旭市こども計画の策定に係るアンケート調査結果について」です。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>事前に送付いたしました資料2をご覧ください。今回実施したアンケート調査結果の概要をまとめております。</p> <p>なお、計画に掲載していく具体的な施策や数値などの検討については、この先の計画策定の段階で、改めてご意見をいただく機会を設けさせていただきますので、今回は、すべてのアンケート項目ではなく、委員の皆さまからご意見がいただければと思う項目を抜粋しております。</p> <p>ここで、本日配布しました追加資料をご覧ください。</p> <p>3月2日付け中日新聞朝刊に、未婚の若者400名を対象に実施された民間調査の結果として、「子どもを望まない」とする回答が、男女ともに半数を超えたという記事が掲載されました。</p> <p>今回は資料2に掲載していないのですが、本市が実施した18～29歳の若者を対象としたアンケート調査にも、将来の理想の</p>

	<p>子どもの人数を問う項目があり、その結果を追加資料とさせていただきます。</p> <p>その結果、理想の子どもの人数が0人、子どもを望まない若者は20.7%でした。</p> <p>このアンケートは未婚既婚の区別なく、市民1,000名を無作為抽出しており、そのうち232名から回答を得たものになるため、条件は異なりますが、本市の若者の多くは子どもを持つことを望んでいることがわかります。</p> <p>そのため、市としては、理想とする子どもの人数を持つことができるよう、若者をバックアップできる政策を検討していく必要があると考えております。</p> <p>追加資料の説明については以上となります。</p> <p>資料2の説明については、計画策定の支援事業者、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の岩室様をお願いしたいと思います。</p>
<p>岩室氏(支援事業者)</p>	<p>アンケート概要につきまして、4つのアンケートを実施しています。</p> <p>1つ目は就学前児童保護者、2つ目が小学生保護者、3つ目が子ども、4つ目が若者です。</p> <p>方法としては、1つ目の就学前児童保護者と4つ目の若者が一緒に、住民基本台帳から抽出し、郵送若しくはWeb回答という方法です。2つ目の小学生児童保護者と3つ目の子どもに関しては、教育委員会の保護者連絡システムを使って回答をお願いしたのですが、なかなかご回答いただけなかったため、小学生児童保護者に関しては、はがきによる督促も実施しています。</p> <p>調査時期は、令和5年の12月から1月にかけて実施しています。</p> <p>有効回答数は、就学前児童保護者が875人、小学生児童保護者が796人で対象の小学校3年生・6年生の保護者対象としてはだいたい5割程度です。子どもは、保護者からお子さんに回答をお願いする方法で実施しましたが206人に留まっています、対象は小学校5年生・6年生及び中学校2年生です。若者は232人で有効回答率が23.2%ですので、意識が高い人の回答がやや多いと感じています。</p> <p>質問項目は、就学前児童保護者は、保育園をどれぐらい利用したいですかとか子育て悩みなどについてお聞きしています。小学生児童保護者は、お子さんの生活ですとか子育ての悩み。子どもアンケートは、お子さんの生活ですとか夢とか悩み。若者アンケ</p>

ートは、生活ですとか少子化に関してお聞きしています。

まだ取りまとめ中ですが、今回このなかで尾張旭市さんに重要な指標をピックアップしていただいて、そのご説明をさせていただきたいと思います。

1 頁目、就学前児童保護者アンケートの結果です。

「子育て支援サービスの認知度と利用状況について」まず、認知度を見ていきますと、かなり高い状況です。「こども・子育て相談、子育て支援センター」、「子育てひろば（児童館）」に関して9割を超えています。一方で、子育て情報誌の認知度はまだ限定的という状況です。

2 頁目、利用状況についてですが、「子育て支援センター」と「子育てひろば（児童館）」の利用割合は6割です。回答いただいた5割の方々のなかで6割ぐらいが利用しているという状況です。あと、「保健福祉センターでの妊娠・育児相談、こども・子育て相談」や「園庭開放」に関しては、100%利用するものではないかなと思っています。「保健福祉センターでの妊娠・育児相談、こども・子育て相談」、「園庭開放」、「こどもの発達センター」等の利用状況は3割～1割という状況です。「あさびー子育て応援ナビ（アプリ）」については、32.8%の方が利用したことがあると回答しています。

3 頁目、「子育てをして、良かったこと、楽しいこと」に关しましては、「子どもの成長がわかること」、「子どもの笑顔が見られること」の割合が特に高く、この他、「自分自身も成長できること」ですとか、「夫婦・家族の中で会話が増えること」、「子どもを通じて近所や地域に知り合いが増えたこと」など、自分個人から始まって、家庭ですとか地域ですとか社会に関することも、良かった楽しいこととして挙げる方がけっこういらっしゃいます。

4 頁目、逆に「子育てが、辛いと感じるとき」については、1番多くの方にご回答いただいたのは、「保護者自身の体調がすぐれないとき」（81.4%）でした。それから2番目に多かったのは、「自分のやりたいことが十分できないこと」（59.5%）。またその下の、「子育てが思い通りにならないこと」（45.8%）、この辺りがたくさんの方がご回答されています。この他、育児に関する項目ですとか、子どもとの時間を十分にとれないことや育児と仕事の両立ができないことなど時間がおしてしまっ大変だというようなご回答でした。また、子どもの発達ですとか食事や栄養に関するご回答もいただいています。注意が必要だと思っ

ているのは、「子どもを感情的に叱りすぎたり、世話をしなかつたりすること」(24.9%)で、程度にもよるかと思いますが、こちらは少し心配になる指標です。

5頁目、「身近な地域で充実するとよい支援」に関しまして、多かったのは、「親同士が知り合う機会」(35.3%)、「子ども同士が会う機会」(43.4%)、「親子で、遊んだり、くつろいだりする場」(54.5%)など出会いの機会に関する回答です。また、「地域全体で子どもの安全のための見守り」(53.3%)についても多くなっています。

続いて「市が充実させる必要がある子ども施策」についてですが、特に多くの方にご回答いただいたのが、「家の近くで安心して遊べる場の充実」(52.9%)、「経済的負担の軽減」(55.2%)ということです。この2つに関して、私共は他の自治体でもお手伝いさせていただいていますが、この2つに回答が集中するというのは全国的な傾向だと思っています。3番目、4番目を見ますと、「子育てをしている親がリフレッシュするために一時的に子どもを預かる事業の充実」(39.3%)、「低年齢児保育の充実」(30.4%)と高くなっています。

6頁目、ここからは、小学生児童保護者アンケート結果です。

「子育てをして、良かったこと、楽しいこと」について、先程の就学前児童保護者アンケート結果とほぼ同様の結果です。子どもの成長ですとか、子どもの笑顔が一番多く、自分自身も成長できる、知り合いが増えるですとか会話が增えるなどの回答をいただいています。

また、7頁目、「子育てが、辛いと感じるとき」について、こちらも就学前児童保護者アンケート結果と同じような傾向でして、基本的に少しずつ割合が減っている項目が多いですが、「子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること」(28.9%)の項目が、小学生児童保護者では少し増えているところがございます。

8頁目、「身近な地域で充実するとよい支援」に関しましても、就学前児童保護者アンケートと傾向は同じですが、「子どもに遊びを教えたり、しつけをしてくれたりする機会」(29.4%)、「地域全体で子どもの安全のための見守り」(61.7%)、この辺りが就学前児童保護者アンケート結果と比較して割合が高くなっている項目です。

続いて、「市が充実させる必要がある子ども施策」に関しまして、こちらは就学前児童保護者の選択肢と変え、小学生保護者へ

の選択肢に変えています。最も多かったのは「子どもの居場所づくり」(44.0%)、次が「多様な遊びや体験、活躍できる機会」(39.7%)、3番目が「いじめ防止・不登校の子どもの支援」(32.9%)、この辺りが割合が高くなっています。その他、「子ども施策について、子どもの意見を聞いたり、対話をする機会」(23.1%)、「子ども施策や学校運営について、保護者と対話をし、いっしょに取り組む機会」(25.5%)、「子どもの発育発達相談や困り感に応じたきめ細やかな相談」(24.7%)等々をご回答いただいています。

9頁目、「尾張旭市の教育・保育・子育て支援の環境」について、現状どう思うかを聞いています。回答はそれぞれ分かれており、評価されているのは「保育園や幼稚園で充実した教育・保育が行われている」、「子どもが安全・安心に過ごせる」、「仕事と育児の両立がしやすい職場である」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合が高い項目です。特に「仕事と育児の両立がしやすい職場である」は、高評価であり、個人的には驚いています。この10年間で変わってきているんだと感じています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計で3割超えている項目は、「保護者の妊娠・出産・子育てへの負担や不安の軽減が図られている」、「学校教育が充実している」、「子どもが多様な体験・活動を行うことができる」、「子どもの意見を参考にしたまちづくりが行われている」でした。この他、「配慮を必要とする子どもが適切な支援を受けられる」と「子どもの意見を参考にしたまちづくりが行われている」については、「分からない」の割合が高くなっています。

10頁目、子どもアンケート結果です。

「楽しかったり、充実感があること」に関しては、「友だちといっしょのとき」(77.2%)、「家族といっしょのとき」(48.1%)、「一人で趣味や遊びをしているとき」(48.1%)、「ゲームやインターネットをしているとき」(54.9%)という項目が上位となっています。

続いて「ほっとする場所」に関しては、「自分の部屋」(57.3%)、「家庭」(70.9%)が多く、その次が「学校」(27.2%)という状況です。「インターネット空間」(18.0%)もある程度いて、先ほどの設問の趣味、ゲームやインターネット等含め、少し重要な居場所になりつつあるということが確認できるかと思います。

11頁目、若者アンケート結果です。

	<p>子どもアンケート同様に、「楽しかったり、充実感があること」に関してお聞きしたところ、「家族団らんのとき」(37.5%)、「友人や知人と雑談しているとき」(53.0%)、「趣味やスポーツをしているとき」(61.2%)、「買い物や旅行をしているとき」(53.9%)等々の回答をいただいております。</p> <p>最後12頁です。「居場所」に関しては、ほっとできる場所や心地よい場所をお聞きしています。「自分の部屋」(71.1%)、「家庭」(61.2%)等々が高く、それ以外になると少し限定的な状況です。</p>
上村会長	ただいまのご説明で質問やご意見があればお願いします。
志村委員	資料を見せていただきまして、「のびざかり」という市が発行する子育て情報誌というものの記憶はありますが、どこに置いてありますか。
子育て相談課長	子育て支援事業の一環として、市の子育て情報を掲載しています。配布する機会は、母子健康手帳の交付時や児童手当受給者の対象となる転入世帯にお渡ししています。また、出産された全世帯に実施する赤ちゃん訪問事業でも、面談をしながら配布しており、年間1400部くらい配布しています。保健福祉センター3階の子育て相談課で作成しています。
志村委員	<p>対象者にお渡ししているということですね。分かりました。それから、アンケート内容ですね。子どもや若者、保護者にとって大切なのはやっぱり家庭、家族や友だちということですね。楽しいし、一緒に過ごす心がくつろぐ、安全でほっとする場所で、昔から私達もそうだったと思うんですが、それには、大人が健康で心にゆとりがなければできないのかなと思います。家庭や学校で子どもがなんでも話せるという環境が大事だと思います。</p> <p>また、前回会長が、子どもに悩みがあっても相談しにくいという声があるとおっしゃっていたと思いますが、そうだと思います。これは人権教育にも関わることだと思います。学校では人権教育をやっていただきたいし、相談にのってくれる仕組みを充実させていただきたいです。相談したからと言ってすぐに解決とはなりません、見守る姿勢として、個別的に一緒になって動いてくれる人材が居ればいいのではと思います。特に小学校はそうなんじゃないかと思います。例えば、いじめや不登校問題というのは今後も無くならないんだと思います。子どもの頃から続くいじめや不登校は若者に長い引きこもりにも続いていってしまう場合もあるようです。8050問題とって、80歳の親が50歳の子の世話をしているというような話もあります。子どもは未</p>

	<p>来の有能な人材ですから、もったいないなと思います。そのため、先程も申しましたとおり、個別的に何か関わってくれる人が居るといいなと思います。ボランティアみたいな形でも。親にとっては大事な我が子ですから、心配するのはわかりますが、立場が違くと少し対応も違ってたり、違う視点がみられたりすることがあると思いますので、何かいい仕組みがないかなと思いました。</p> <p>それから、前回、居場所の話題が多く取り上げられました。家の近くで安心して遊べる場所があるのは本当に助けになるし心強いと思います。それでもやっぱりそういう居場所を設けるということは、安全第一だと思います。以前、集会所のような交流館のような所に、子どもがおもちゃの拳銃のような物を持ち込んだという話を聞いたことがあります。たぶんレプリカだと思うんですけど、どうも家から親の物を持ち出してきたようです。やっぱり安心して使えるような居場所を運営して欲しいと思います。</p> <p>それから、アンケートの中で、医療的ケア児を受け入れる学校を探すのに苦労したと聞いたことがあります。回答の「分からない」の割合が高いことが気になりました。人権は誰にでも平等にあると思います。近隣の市と協力や提携するなどして工夫して支援の仕組みを作れたらいいなと思います。子育て世帯というのは働く世帯ですから、働きながら子育てしやすいまちっていうのを目指すのは時代の要請で、大事なことだと思います。本来ならば日本人の働き方、教育環境、女性だから男性だからなど、そういったことが大きく変わってくれるといいなと思います。</p>
安藤委員	<p>質問です。このアンケートのサンプルの取り方についてですが、就学前児童保護者アンケートと、小学生児童保護者アンケートはそれぞれ別の家庭をちゃんと抽出しているのか、それとも、同じ保護者の第一子が小学生で、下の子が保育園児という場合もあるのかを確認したいです。もし、その家庭（後者）が経済的に困難で、こどもの世話が大変だという場合は、やっぱりいろいろ問題があるのかなと思いますので、公平性に広くアンケートが集計できているのかをお聞きしたいです。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>就学前児童保護者アンケート調査は、無作為抽出の1,500人に実施しており、こちらのアンケートを先に抽出しています。その後、小学生児童保護者アンケートを実施しており、結果的に小学校3年生と6年生の保護者には、再度、はがきでの督促を実施しています。この段階で確認したところ、対象者全家庭にはがきを送ることになったので、就学前児童保護者の方で、アンケートが届いたご家庭に小学校3年生（6年生）が居れば、後から小</p>

	<p>学生児童保護者アンケートも届いているという状況になりますので、2つのアンケートをお応えいただいた家庭があるという可能性はあります。</p>
上村会長	<p>私からも確認です。設問項目は、あてはまるもの全てに回答する形式でしょうか。</p>
岩室氏	<p>設問によってそれぞれですが、一つ選ぶ形式の設問は、資料1頁目、2頁目等です。あてはまるものをいくつも選ぶ形式の設問は、3頁～5頁目のようなタイプのグラフのものです。それぞれの設問によっては選択する数の設定があります。</p>
上村会長	<p>最終的な報告書のなかには、そうしたことも含めて記載されると思いますが、今日の段階ではただ今の答えということですね。</p>
岩室氏(支援事業者)	<p>あてはまるもの全てに回答する設問は、4頁目～7頁目です。5頁目の下の「市が充実させる必要がある子ども施策」のみ3つを選択する形式です。</p>
こども子育て部次長	<p>また、結果をまとめる際には、そのあたりも明記した形にさせていただきます。</p>
上村会長	<p>ありがとうございます。就学前児童保護者アンケートを見ていますと、認知度と利用状況ということで考察というのが加わっていますが、実はその間に、必要度があるんじゃないのかなと内容を見て思いました。先程ご説明もありましたように、保健福祉センター、子育て支援センター、子育てひろば、園庭開放、それが幅広く利用する必要であったり、利用するニーズも含めて高いのかなと思いますが、例えば、こどもの発達センター、ファミリー・サポート・センターは、利用度が低いからと言って必要度が低いわけでは決していないと思います。認知度も低いし利用度も低いけど、必ずしも必要度が低いということではない。つまり、配慮を必要とするお子さんであったり、学校のサービスを利用するニーズはあるわけで、こどもの発達センターとファミリーサポートセンターに関しては、利用度や認知度が低くても必ずしも必要度が低いと、イコールではないと思います。と同時に、先程の「のびざかり」に関しては、情報提供のツールとしての必要度というのを検証していく必要があるのか、若しくは認知度を高めていくに当たっての普及の仕方を考えていくのか、次の策につながるような回答結果が出たのかなと思います。</p> <p>また、全体を見たときに、就学前児童保護者の場合は、具体的なサービス名が挙がるんですよ。支援サービスの認知度や利用状況を聞きたいときに。しかし、小学校、中学校になると、具体的なものが一切今回の調査の概要の中には挙がってきていない。</p>

	<p>ここだと思います。具体的なものがないのか。ここをやはり名称があるものを市民に公開していったり、それを増やしていったということが求められています。市に求める対応というのが具体的に挙がってきており、それがどういった居場所であったり、具体的な資源として提供していくのか。我が国全体に言えることだと思いますが、就学前と就学後の子育て支援が分断しています。就学前に関しては非常に社会資源リソースが充実してきていますが、学童以降の子ども達にとって、親にとっては、具体的なものがなかなかない。それぞれの自治体で力を入れているところだとは思いますが、そのあたりの課題というのがアンケートからも少し見えたかなと思います。</p>
朝見委員	<p>アンケートの回答率なんですけど、他の市でも回答率はこれぐらいなものでしょうか。小学生児童保護者の方には督促までされたらと伺うと、子育てに関する関心度というのが本市は低いのではないかと、とそここのところをととても危惧しています。</p>
岩室氏(支援事業者)	<p>就学前児童保護者アンケートについてですが、全国のモデル調査票がありまして、だいたいどの市町村も同じようなアンケートを実施しており、回収率5割強というところが多く、結果、傾向としてはほぼ一緒です。しかし、国のモデル調査票はA4で20頁にも及ぶ膨大なもので、尾張旭市は、これだと回答が厳しいだろうということで16頁ぐらいにし、負担軽減のために重要なものを絞ってお聞きしているという状況です。こういった違いはあるにせよ、全国とほぼ同様の傾向かなと思います。回収率が高いところが時々あるんですが、それは保育園や幼稚園で直接配布してしまっていて、そうすると回収が偏ってしまいますので、中立的な方法をとっているとお考えいただければと思います。</p> <p>それから、小学生児童保護者アンケートと子どもアンケートについては、今回初めて保護者連絡システムを利用してアンケートをとってみました。事務局としても想定より低く、その要因が関心なのか方法なのかが分からないというところがあります。</p> <p>若者アンケートについては、投票率と似ているところがありますので、3割前後というのを想定していましたが、少し低めというところがございます。低く出やすい自治体の特徴として、転入者が多いところで、その影響があるかもしれません。この世代の回収率が4割を超えることはなかなかありませんが、少し低めだと私共は思っております。</p>
朝見委員	<p>ありがとうございます。今のお話があるなかで、やはり本市は、就学前児童に関してのいろいろな施策とか関心とかがとても高</p>

	<p>い地域だと思うんですが、学校に入ってからいろいろな居場所だとか、不登校とかいじめに関する対策などは、このアンケートには詳しく反映されていないと感じます。学校がほっとする場所として回答しているのが27.2%ということは、ほっとしていない児童が多いのかなと感じます。そのため、親の心配事もいじめ不登校対策のこととかが気がかりになりますよ、というのが出てきたかと思います。学校にほっとできる場所ができるといいなと、アンケート結果を拝見して感じました。または、学校にほっとできる場所がなければ、家庭とかお友達の家以外の場所というのがアンケートに書かれてきていないので、例えばフリースクールだとかが、小中学生や若者にとって必要になってくるんじゃないかと感じました。</p>
水野委員	<p>私は逆の見かたをしていて、学童クラブは、働いていらっしゃる家庭の子ども達をお預かりして、放課後を安全安心の場所として提供させていただいています。そんななかで、働くお父さんお母さんがお仕事しながら子育てを一生懸命頑張っているというところで、どうにか力添えさせていただきたいなというところではあります。実際、現場におりますと、保護者がどれだけ大変かというところをすごく感じられるんですが、今回のアンケートを見たときに、子どもの成長が分かるだとか、子どもの笑顔が見られるという回答率が高いというところに、すごく安心しました。放課後は、学童クラブや児童クラブに任せとけばいいわ、私は仕事を頑張るから、という考えではなく、保護者の方も子どもの成長だとか笑顔だとかに喜びを感じていらっしゃるというところに、すごく安心感があります。なので、やっぱり基本は家庭力だと思っています。保護者の方が子どもを育てる支援として、私達は安全安心を保障させていただきますが、応援団長は保護者であって、私達は応援団であるしかないと考えておりますので、本当にこの回答を見させていただいて、とっても安心しました。</p> <p>一方で、私達も職業柄、学校の配信アプリは入れさせていただいています。その関係でアンケートも見させていただき、こうやって保護者がアンケートをとられているんだなと見させていただきました。そんななかで、やっぱり初めてのトライだったというところもあるんでしょうが、たぶん紙面で目にしないと回答が難しいんじゃないかと、それをアプリでとりあえずは見るけれども、その時にたった5分、10分が見たときに回答に向かえるかどうか。その時間をその時に割けるかどうか。また、その後にて</p>

	<p>も意識を持ってそのアプリに再度回答をすることに、もう一歩力があるんじゃないかと感じました。アンケートのとり方というのも今後はペーパーレスになっていくので、Web上でアンケート回答をすることはとてもいいことだと思います。再度、はがきでお願いしたというのも存じ上げておりましたし、それぐらい関心が薄いというか、回答に向かえなかったんだなという理解はしました。今後どうされていくかは分かりませんが、社会全体がペーパーレスに向かっているので、保護者の皆さんもたぶん今後は、アプリを使って、小さなアンケートからいろんなアンケートをされていくということも含めて、今後のアンケート調査という方向に向かっていたらなと思います。</p>
松崎委員	<p>話の続きなんですが、ペーパーレスでとてもいいとは思いますが、私も保護者としてアプリを見ていて、学校からは5件、6件が夕方頃に一気に通知が来たりします。3人くらい子どもがいる場合それが3人分ずつ来るらしく、他のお母さんから話を聞いていると、見てもらえないと。そうすると大事な通知を見逃してしまう。なので、このアンケートも、まあいっかど、学校の行事の方がやはり大事なので、つついこのアンケートは、まあいっかどなってしまう、見逃すことがたぶん多いのではと思います。親としていっぱいそういう声を聞くんで、アプリちょっと多過ぎるよねと。ですので、少し考えるべきかなと思います。</p>
谷口委員	<p>私も選ばれた一人なんですが、実際回答していく上で、先程もおっしゃっていたように、違う用事が入ってしまったらどか、仕事をしながら子育てをしていくなかで、子どもに呼ばれれば対応しなければならない。それでもアンケート内容を短くしていただいたというところで答えやすかったのかもしれませんが、やっぱりそのまま忘れて、そのままになってしまうというところ。紙の回答であればできたのかと言われれば、それでもやっぱり3つ来たらそれだけでできないだろうしというところもあるかと思っています。なので、小学校の保護者連絡システムを試されたところでの回答率が低かったのは、答えたくなかったんじゃないくて答えられなかったんだという事情もあったのではと、自分も回答をさせていただいた上で、そういうふうに思いましたのでお伝えします。</p>
安藤委員	<p>私は小児科医なので、情報提供という意味でお話させていただきたいと思います。昨年度末にこども家庭庁から、生後1か月の子の健診と、5歳児健診というのを公費負担でやるようにと通知されました。皆さんのお子さんが乳幼児健診で必ず受けたよう</p>

	<p>な、3か月健診、1歳6か月健診、3歳児健診がありますけれど、その先に5歳児健診が今後始まります。そこで今、どうやってやるんだと小児科医と行政ですったもんだしている状態なんです。その5歳児健診の事前問診票やこういったところを診ましようというマニュアルを作成途中なんです。やはり「子育て辛いですか」というような質問項目も含まれます。あと、5歳児健診の意義というのは、もちろん身体的異常を見つけることも確かなんです。やっぱり発達状況、発達障害の早期発見、もちろんもっと早期に発見して欲しかったのは、1歳6か月健診や3歳児健診時なんです。そこからなんとなく抜けてしまった子たちも就学前に、学校に上がって見たら大変という事態を極力減らしていこうということで始まります。</p> <p>そのため、発達の課題とか運動機能の未熟さ、いろいろな家庭的な背景などが、問診や診察項目で拾い上げられるようになります。ということで、就学前児童保護者アンケートに関しては、かなりそこで本当に広い枠で拾えると思います。そうなってくると、こどもの発達センターだとかファミリー・サポート・センターの必要度というのはぐんと上がってくるかもしれない。そしてその先に、就学に向けての支援、就学後どういう対応するか、課題のある子たちをどういうふうに就学後支援していくのか、先程会長が言われたような実際的な具体的な施策をもっとやっていたらいけないというのが今後大きな課題になるし、やらざるを得ない、やらなければならないという風潮がもっと強くなると思います。そういう意味では、5歳児健診を契機にガラッと変わってくるかもしれません。残念ながら尾張旭市は、私は乳幼児健診をやっていないのでわからないですけども、どこで止まっているのか分かりませんが、まったくそういった動きが感じられません。私が介在している他の市町では、かなり、どうやってやるんだという話がどんどん進んでいて、引かかった子たちをどういうふうに事後指導していくのか、そういった体制を整えるために私まで巻き込もうとしているようなところもある自治体もあるので、これからこういう事がどんどん変わってくるのかなと思います。そのためにはこの会議ももっと大切になってくるのかなと感じます。</p>
清水委員	<p>主任児童委員でボランティアをしています。ひだまりカフェという不登校のお子さんたちが来るサロンのようなものを月に1回開催していますが、そちらの方でもとにかく相談先が無いというようなことをよく耳にします。無い訳ではなくて、ご存じない、</p>

	<p>どこに聞いたらいいのかが分からないというのも凄く感じていて、少年センターや相談先なんかをまとめた冊子なんかを作ってくださいだったりして、それをお渡しするんですが、本当にご存じないなというのをすごく感じるので、どこか窓口が必要なんじゃないかと思います。また、安藤委員からもお話があったように、5歳児だけじゃなく、それこそ小学校2年生くらいになると授業に付いていけなくて、というお子さんも結構見えてくるけど、じゃ病院に行くのかというと、親御さんの考え方なんでしょうけど、そうでもない親御さんもいて、一斉健診とかがあると、やはり見過ごされずに拾っていけるんじゃないかと思うので、もう少しうまく何か全体的に健診のようなものがあるといいのには思っています。</p>
<p>安藤委員</p>	<p>鳥取県は数年前から5歳児健診をやっており、その評価も定着してきて、全国ネットでやろうとしているわけですが、やはり不登校の減少、早期に学習障害とか発達の課題なんかをすくい上げて介入して療育したり、支援を早々に年長さんのころからやれるということで、不登校が減ったというのがすごく大きく各市町を動かしている。なので健診の意義は大きいのかなと思います。</p>
<p>谷口委員</p>	<p>話が変わってしまうんですが、5頁の「市が充実させる必要がある子ども施策」のところで、私が今大切だなと思っていた部分があったんですが、「子育て家庭への家事支援（ヘルパー）や育児支援（シッター）事業の実施」で、この15.1パーセントを高いと見るか低いと見るかというのは、数字を見ただけではなんとも言えないんですが、これを考えたときに、外で預かることの充実はもちろん大切なんですが、家で預かる・支援してもらってことも大切ではないか。例えば保育園は、預けるためには保育園に来なければならないし、保育園に来るためには保育園を利用するための資格というか、就労していたりということが必要であって、それ以外の人にとっては、一時預かりなどは利用できますが、基本利用はできない。そうした場合、例えば1人目を家庭保育していて、第2子ができましたとなった時に、そこで助けて欲しくても、祖父母が見てくれるから大丈夫という時代ではもうないのかなと思っていて、第2期子ども・子育て支援事業の31頁にあるように「祖父母の同居・近居の状況」でも、「祖父母と一緒に住んでいる」という数値を見ると、100%ではないことは確かで、保育園でもよく祖父母にお迎えに来られませんか、連絡つきませんかと伺いますが、年々連絡が取れないし、近くに住</p>

	<p>んでいない、お仕事されていて見ることができない、祖父母世代といってもまだお若かったりしますし、行政としても大切な労働力ではありますので、お仕事をやめてまでお孫さんの面倒を見なければいけないという考え方の世代ではなくなっているのかなと思っています。そうなってくると、保育園や幼稚園といった施設が使えない場合、ご自身でご家庭で子育てをしていかなければいけないとなった時に、ヘルパーさんだったりシッターさんだっりの充実を図っていくことによって、一緒に居てくれるだけでいい人もいるかもしれないし、実際に家事代行してくれたら嬉しい人もいるかもしれない、そういったサービスの充実があることによって、追加資料にある若者達が二人、三人頑張って子どもを育てたいんだと思っているところに、祖父母の協力が得られなかったら子育てができませんとならないよう、できればヘルパーさんやシッターさんを充実させていくというところを進めることが一つ大切なことなのかなと思います。</p> <p>また、実際にシッターさんが必要な家庭の方からお話を伺う機会があったので色々聞いたんですが、実態がよく分からない業者にお任せするってことはできれば避けたい、可能であれば行政が介入して安心して利用できるような安心感を得たい。あともう一つ経済的負担の軽減ということで、名古屋のように補助を受けられるとすごく助かる、利用しやすい、子育てもしやすい、というところで、なんとかそういった支援の方もしていただけると嬉しいなと思います</p>
朝見委員	<p>今のお話を伺って、おばあちゃん世代としていつも呼び出しがかかるのは、子どもの発熱時で、急に親が職場を休めなくて、その時の子どもの見守りに保護者が必要だということで呼ばれるわけです。本市は、病児保育ということでひとつだけ機関があるかと思いますが、そこに預けることはなかなか難しい状況で、そんな時、病気の子にシッターさんやヘルパーさんが付いていただけるかは分かりませんが、保育園に迎えにきてほしいという呼び出しとか、インフルエンザ等で保育園や学校が閉鎖になっている場合、自分の子は元気なんだけれども家からは出られないという状況等で、祖父母が呼び出される状況が多々あります。通常の子育ての時は、両親がすごく子育てを頑張っているんですが、子どもが小さいと本当にイレギュラーなことがたくさんあって、そういった時に祖父母のサポートができない家庭にサポートが入れるような、子どもに熱が出ても安心して誰かに見てもらえるようなシステムがあったらいいなと思いました。</p>

上村会長	<p>活発にご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>本日の議題は、以上で終了しました。次に、次第の3「その他」について、事務局から、何かありますでしょうか。</p>
事務局 (こども未来課係長)	<p>次回の開催日程について連絡いたします。</p> <p>次回の会議は、来年度になります。5月に開催したいと考えておりますので、今月末には日程調整の御連絡をさせていただきたいと思っております。なお、人事異動等に伴う委員変更等について、併せて照会させていただくこととなりますので、ご承知おきください。</p> <p>今年度の会議は今回が最後となります。皆さまご多忙の中、ご出席いただき、また貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>来年度はこども計画の策定のため、具体的な施策等についてご意見をいただきたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からの連絡は以上です。</p>
上村会長	<p>本日は、長時間に渡ってご議論いただきありがとうございました。</p> <p>これをもちまして、令和5年度第4回尾張旭市子ども・子育て会議を閉会いたします。</p> <p>皆さま議事進行にご協力いただき、大変ありがとうございました。</p>